

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 4 年 4 月 26 日現在

機関番号：12701

研究種目：基盤研究(A)（一般）

研究期間：2019～2021

課題番号：19H00517

研究課題名（和文）脱マスメディア時代のポップカルチャー美学に関する基盤研究

研究課題名（英文）Research on the Aesthetics of Pop-culture in the age of non-mass media

研究代表者

室井 尚（MUROI, Hisashi）

横浜国立大学・教育学部・名誉教授

研究者番号：50219953

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 31,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究はコロナのパンデミックにより、2年目からは国際学会や対面での研究会が不可能になるなど様々な障害の中で、オンラインも含めたオープン研究会、研究分担者主催によるオンライン研究会、さらには複数の研究報告書作成などを通してさまざまな成果を挙げることができた。とりわけ、ポストコロナ時代のメディア環境に関する新しい問題意識をめぐって、脱マスメディア時代のポストトゥルース論およびポストコロナ時代のポップカルチャーについての世界でも前例のない先進的な研究をすすめることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究はきわめてユニークで新しい問題意識に基づく先進的な研究であり、3年間の研究期間においてきわめて著しい成果を挙げることができた。脱マスメディア社会と文化という問題設定から始まり、国際学会やオープン研究会を通して議論を積み重ねるとともに、2年目から始まったコロナウイルスによる世界的なパンデミック状況における社会や文化の変容をその考察の対象にさらに加え、研究メンバーそれぞれが研究を飛躍的に進展させることができたと考えており、その学術的意義や社会的意義は大きい。

研究成果の概要（英文）：Despite various obstacles, such as the impossibility of international conferences and face-to-face meetings due to the Corona pandemic, this study was able to achieve various results through open seminars, including online seminars, online seminars organized by the research members, and the writing of several research reports. In particular, we were able to conduct unprecedented advanced research on post-truth theory in the era of non-mass media and pop culture in the post-coronation era, based on a new awareness of issues related to the media environment in the post-coronation era.

研究分野：美学

キーワード：美学 ポップカルチャー 文化理論 脱マスメディア社会 ポストコロナ ポストトゥルース

1. 研究開始当初の背景

本基盤研究の目的は、マンガ、アニメ、ポピュラー音楽などをそれぞれの作品や現象のレベルで個別に扱うのではなく、それらに共通し、またそれらの中に近代芸術や文学にも通底する文化的な潜勢力を見出すことによって、ポップカルチャー美学の基礎的な概念のいくつかを創出していこうとするものであった。

従来のアプローチは必ずしもポップカルチャーに関する一般概念の構築に結びついているものとは言えない。それらは要するに、氾濫するポップカルチャーの中から、一部の「語るに値する作品」や「社会現象」を抽出し、まるで従来の絵画や文学作品のようにそれらを分析したり、「社会の鏡」として読みといていこうとしたりしているものにすぎない。また、これらの欧米のポップカルチャー研究においては、未だにハイカルチャーとの明確な線引きが前提となっていることも否めない。現実にはハイカルチャーとしての現代芸術の領域が溶解し、ポップカルチャーと分かちがたく成立しているのに対して、理論レベル、批評レベルではそれらを厳然と区別する旧来の知的分業体制が強く横たわっていることも事実である。

そうした中で我々の研究グループは文化がそれを支えるメディア環境に大きく支配されるものであることに着目し、「脱マスメディア」時代という視点からポップカルチャー、そして文化一般の地殻変動を考えようとする研究に着手することにした。

2. 研究の目的

ポップカルチャーの成立要件としてはマスメディアの登場が欠かせない。19世紀の中頃に登場したさまざまなマスメディア(新聞、雑誌、写真、映画、ラジオ、テレビ etc.)は、世界的な規模でポップカルチャーを広め、それらは資本主義経済の進展とともに発展していった。しかしながら現在ではインターネットのような非マスメディア型のメディアが文化の拡散に決定的な影響力を持ち始めている。こうした視点からさまざまなポップカルチャーにおける本質的な変化に照準を当て、これまでとの違いを明らかにするとともに、脱マスメディア時代のポップカルチャーの一般理論の構築を目標としてきた。

3. 研究の方法

国内外からのゲストを招いての研究会・研究集会の開催、国際学会でのラウンドテーブル主催、報告書での成果発表、各研究メンバーによる独自の調査やシンポジウムの開催などによって、上記の目標に近づこうとしてきた。

4. 研究成果

初年度にはセルビアのベオグラードにおける国際美学会でのラウンドテーブルを組織し、アルゼンチンのブエノスアイレスでの国際記号学会での研究発表をするなど、国際的な場での討議によって研究を進展させることができ、またオーストラリアからゲストを招いて横浜で大規模な研究集会を開催し、映像文化における「サブスクリプション」消費をめぐる議論をするなどといった活動を実現することができたが、2年目からは新型コロナによる世界的なパンデミックによって、これらの国際的な学術交流が極端に困難になってしまった。

そのため国内での研究活動に限定せざるをえなくなったが、それも度重なる緊急事態宣言やまんえん防止等重点措置の施行によって研究会の開催がきわめて困難になることも多かった。そうした中で、オンラインでの研究会を含めて、各研究分担者が独自にシンポジウムや研究会を開催したり、独自テーマでの報告書を発行したりするなど、手足を縛られた中でも研究を進展さ

せることができた。

とりわけパンデミック状況におけるさまざまな状況の変化が、我々の研究に新しい問題意識をもたらしたことは重要である。すなわち、そこでは国民国家やマスメディアの力が極大になっていくという現象が生まれ、「脱マスメディア時代」という我々の当初の問題設定に変更を加えざるをえなくなるという事態が生まれた。

だが、それと同時に SNS をはじめとするインターネット環境において、「ポストトゥルズ」と総称されるような新しい現実認識のあり方を露わにしていき、とりわけ 2020 年秋のアメリカの大統領選挙においてフェイク・ニュースが真実として流通するという現象が生まれ、基本的にはマスメディアに対する信頼性が著しく損なわれていくという意味で「脱マスメディア時代」という我々の基本的認識はまちがっていないということが確認された。

これらの研究上の成果は年度末に毎年発行した複数の報告書で発表してきており、その中には社会学者・大澤真幸氏やメディア評論家・藤田直哉氏などによるオープン研究会での報告も含まれており、きわめてユニークな研究成果を上げてきていると自認している。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計22件（うち査読付論文 6件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 14件）

1. 著者名 佐藤守弘	4. 巻 21
2. 論文標題 ポピュラー文化のなかの超芸術トマソン カテゴリー化の両義性	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 現代風俗学研究	6. 最初と最後の頁 9-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉岡洋	4. 巻 26
2. 論文標題 少年時の正念場	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 こころの未来	6. 最初と最後の頁 2-3
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 吉岡洋	4. 巻 23
2. 論文標題 「失敗」に親しむ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 こころの未来	6. 最初と最後の頁 10-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 吉岡洋・大久保美紀	4. 巻 24
2. 論文標題 生命と芸術	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 こころの未来	6. 最初と最後の頁 26-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 吉岡洋	4. 巻 6
2. 論文標題 美学のアップデート 機械仕掛けの芸術(デウス・エクス・マキナ)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ひらく	6. 最初と最後の頁 225-232
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉岡洋	4. 巻 5
2. 論文標題 美学のアップデート 炭鉱のカナリア、あるいは「弱さ」について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ひらく	6. 最初と最後の頁 236-244
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉岡洋	4. 巻 4
2. 論文標題 美学のアップデート 無関心性について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ひらく	6. 最初と最後の頁 186-195
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤守弘	4. 巻 57巻7号
2. 論文標題 都市をひと目に 地図・写真・鳥瞰図、そしてDiorama Map	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ユリイカ	6. 最初と最後の頁 131-143
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤守弘	4. 巻 15号
2. 論文標題 コレクションとアーカイヴ(ズ)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 大正イマジユリィ	6. 最初と最後の頁 7-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Fuminori Akiba	4. 巻 Sep
2. 論文標題 Aesthetics of Japanese Convenience Stores: From the Point of Eating Alone	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Popular Inquiry: The Journal of the Aesthetics of Kitsch, Camp, and Mass Culture	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 吉田寛	4. 巻 12
2. 論文標題 eスポーツから考える 身体、技術、コミュニケーションの現在と未来	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Fashion Talks...	6. 最初と最後の頁 28-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hiroshi YOSHIDA	4. 巻 44
2. 論文標題 L'expérience vidéoludique en tant que double processus sémiotique	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 JTLA (Journal of the Faculty of Letters, The University of Tokyo, Aesthetics)	6. 最初と最後の頁 51-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 吉岡洋	4. 巻 21
2. 論文標題 アーティフィシャル・マインドをめぐる	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 こころの未来	6. 最初と最後の頁 4-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 吉岡洋	4. 巻 22
2. 論文標題 芸術の持続可能性	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 こころの未来	6. 最初と最後の頁 38-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Fuminori Akiba	4. 巻 -
2. 論文標題 Aesthetics of Japanese Convenience Store	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Proceedings of the 21st ICA 2019, Belgrad	6. 最初と最後の頁 276-281
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤守弘	4. 巻 47巻9号
2. 論文標題 トマソンの類型学 ポピュラー文化のなかの超芸術	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 124-134
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤守弘	4. 巻 69
2. 論文標題 断片化された都市 福原信三『巴里とセーヌ』を読む	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 文化学年報	6. 最初と最後の頁 151-170
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 吉田寛	4. 巻 33
2. 論文標題 デジタルゲーム研究は美学にとってなぜ重要か	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 文化交流研究	6. 最初と最後の頁 71-81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 吉田寛	4. 巻 21
2. 論文標題 機械にゲームができるのか?	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 こころの未来	6. 最初と最後の頁 18-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Fabien Carpentras	4. 巻 6(1)
2. 論文標題 Memory Politics and Popular Culture The Example of the United Red Army in the Manga Red	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 IAFOR Journal of Media, Communication & Film	6. 最初と最後の頁 85-104
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.22492/ijmcf.6.1.05	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Fuminori Akiba	4. 巻 6(66)
2. 論文標題 The Idea of Landing Sites and Its Inheritance through Tactileology	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Philosophies	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/philosophies60300	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Fabien Carpentras	4. 巻 59
2. 論文標題 Les films realises en cooperation avec les Forces japonaises d'autodefense. Une forme de propagande indirecte dans un monde multidentrique	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Ebisu	6. 最初と最後の頁 153-178
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4000/ebisu.6984	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

[学会発表] 計35件(うち招待講演 11件/うち国際学会 16件)

1. 発表者名 佐藤守弘
2. 発表標題 聖地巡礼 現代日本のポップカルチャーと場所の消費
3. 学会等名 后疫情時代的東亜動漫芸術交流(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 室井尚
2. 発表標題 パンデミック以後の世界とポスト・トゥルース これからの研究展望について
3. 学会等名 脱マスメディア時代のポップカルチャー美学に関する基盤研究・2021年度オープン研究会第二回
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 室井尚
2. 発表標題 脱マスメディア時代と感染症
3. 学会等名 脱マスメディア時代のポップカルチャー美学に関する基盤研究・2020年度オープン研究会第一回
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 室井尚
2. 発表標題 生命と記号論（基調講演）
3. 学会等名 日本記号学会第40回大会「記号・機械・発酵 「生命」を問い直す」（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 吉岡洋
2. 発表標題 美学は何の役に立つのか？
3. 学会等名 美学会西部会第329回研究発表会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 吉岡洋
2. 発表標題 メディアにとってウィルスとは何か？
3. 学会等名 脱マスメディア時代のポップカルチャー美学に関する基盤研究・2020年度オープン研究会第二回
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 佐藤守弘
2. 発表標題 マスメディアのなかの超芸術トマソン 徘徊 観察 採集 分類
3. 学会等名 現代風俗研究会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 佐藤守弘
2. 発表標題 キャビネットのなかの世界 写真とアーカイヴズ
3. 学会等名 日本写真芸術学会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 佐藤守弘
2. 発表標題 鏡・セルフイ・テレビ電話 ヴィデオ会議のなかの 私
3. 学会等名 脱マスメディア時代のポップカルチャー美学に関する基盤研究・2020年度オープン研究会第二回
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 秋庭史典
2. 発表標題 ソーシャルメディアの美学
3. 学会等名 美学会西部会第329回研究発表会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 秋庭史典
2. 発表標題 「脱マスメディアとはどういうことか」
3. 学会等名 脱マスメディア時代のポップカルチャー美学に関する基盤研究・2020年度オープン研究会第三回
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Hiroschi YOSHIDA
2. 発表標題 Japanese Digital Games in the Tradition of Toys
3. 学会等名 International Symposium “Playing Japan: Toys, Games, Literature, and Language Education,” Department of Asian, Middle Eastern and Turkish Studies, Stockholm University, Sweden (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 吉田寛
2. 発表標題 在玩具的伝統中反思日本の数字遊戯
3. 学会等名 創意中国与遊戯文化系列論壇第一場「遊戯与跨文化傳播國際論壇」、上海交通大学、中国 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 吉田寛
2. 発表標題 「新しい生活様式」は學術活動をどう再編成するのか ソーシャルディスタンスとメディア
3. 学会等名 脱マスメディア時代のポップカルチャー美学に関する基盤研究・2020年度オープン研究会第一回
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 吉田寛
2. 発表標題 ビデオゲームにおける画面分割
3. 学会等名 脱マスメディア時代のポップカルチャー美学に関する基盤研究・2020年度オープン研究会第三回
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 ファビアン・カルパントラ
2. 発表標題 新型コロナウイルス感染症と「ピンジ・ウォッチング」
3. 学会等名 脱マスメディア時代のポップカルチャー美学に関する基盤研究・2020年度オープン研究会第四回
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 MUR01, Hisashi
2. 発表標題 Pop-Culture Studies after Internet toward a general theory of pop-culture
3. 学会等名 第21回国際美学会 (21st International Congress of Aesthetics) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 MUR01, Hisashi
2. 発表標題 Introduction to New Semiotics in the Internet Era
3. 学会等名 第14回国際記号学会 (14th World Congress of Semiotics IASS/IAS) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 室井尚
2. 発表標題 美学という呪い
3. 学会等名 美学会第70回全国大会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 吉岡洋
2. 発表標題 Right of Naming Time: Semiotic View over the Change of Japanese Era Name
3. 学会等名 第21回国際美学会（21st International Congress of Aesthetics）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 吉岡洋
2. 発表標題 Manga and Shunga: Understanding sex and eroticism in pop culture
3. 学会等名 南京大学国際記号学ワークショップ（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 吉岡洋
2. 発表標題 A Narrative as Pharmakon: The meaning of “poisoning” in a traditional Japanese tale: Shindokumarū
3. 学会等名 第14回国際記号学会（14th World Congress of Semiotics IASS/IAS）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Fuminori Akiba
2. 発表標題 Aesthetics of Japanese Convenience Store
3. 学会等名 第21回国際美学会 (21st International Congress of Aesthetics) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 秋庭史典
2. 発表標題 孤食を描くマンガ
3. 学会等名 テクノロジーと感性・社会・文化ー多分野協働学術コンソーシアム, 九州大学
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 SATOW, Morihito
2. 発表標題 Photogenicity in the Age of Digital Networking Visual Culture in Contemporary Japan
3. 学会等名 第21回国際美学会 (21st International Congress of Aesthetics) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 SATOW, Morihito
2. 発表標題 Trace, Reproduction and Manipulation: Memorial Photography in Modern Japan
3. 学会等名 Western Conference of the Association for Asian Studies 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐藤守弘
2. 発表標題 福原信三のバリ 都市表象の断片
3. 学会等名 大正イマジユリィ学会第46回研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 YOSHIDA, Hiroshi
2. 発表標題 The Aesthetics of Retrogaming
3. 学会等名 Pixel-Art und Chiptunes (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 YOSHIDA, Hiroshi
2. 発表標題 Conditions and Effects of “Games in Games” in Video Games
3. 学会等名 第21回国際美学会 (21st International Congress of Aesthetics) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 YOSHIDA, Hiroshi
2. 発表標題 Emulation at Play
3. 学会等名 9th International Conference on Eastern Aesthetics (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Fabien Carpentras
2. 発表標題 The Zombie Manga I Am a Hero (2009-2017) as the Expression of National and Male Anxieties in 21st Century Japan
3. 学会等名 The 9th Asian Conference on Cultural Studies (ACCS2019) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Fabien Carpentras
2. 発表標題 The “Female Soldiers” of the United Red Army: Representations of Women’s Activism in Recent Manga and Literature
3. 学会等名 Twenty-Sixth Annual Japan Studies Association Conference (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 ファビアン・カルパントラ
2. 発表標題 映画館で見られないNetflixの「映画」 映画理論の視点から考察する
3. 学会等名 ストリーミングの美学 “Netflix Nations” のRamon Lobato氏を迎えて
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 秋庭史典
2. 発表標題 コロナ禍と『ひとりごはん』
3. 学会等名 2021年度脱マスメディア時代のポップカルチャー美学に関する基盤研究・名古屋研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 吉田寛
2. 発表標題 芸術、スポーツ、ゲーム - - 三項関係で考える
3. 学会等名 藝術学関連学会連合第15回公開シンポジウム「芸術とスポーツ」（招待講演）
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計20件

1. 著者名 佐藤守弘、安田昌弘、水田拓郎編	4. 発行年 2022年
2. 出版社 同志社大学佐藤守弘研究室	5. 総ページ数 186
3. 書名 UNPOPULAR POP 脱マスメディア時代のポップカルチャー	

1. 著者名 植田憲司、衣川太一、佐藤洋一編、佐藤守弘ほか著	4. 発行年 2021年
2. 出版社 京都府京都文化博物館	5. 総ページ数 118
3. 書名 戦後京都の「色」はアメリカにあった！ カラー写真が描く<オキュパイド・ジャパン>とその後	

1. 著者名 室井尚、吉岡洋、佐藤守弘、秋庭史典、吉田寛、ファピアン・カルパントラ、大澤真幸、藤田直哉	4. 発行年 2022年
2. 出版社 横浜国立大学室井尚研究室	5. 総ページ数 231
3. 書名 ポスト・コロナのポップカルチャー	

1. 著者名 室井尚、吉岡洋、佐藤守弘、秋葉史典、吉田寛、ファビアン・カルパントラ	4. 発行年 2021年
2. 出版社 横浜国立大学室井尚研究室	5. 総ページ数 296
3. 書名 メディア変容と新型コロナウイルス記録集	

1. 著者名 吉岡洋（編集委員長）室井尚、佐藤守弘、秋葉史典、吉田寛（ほか、共著）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 735
3. 書名 美学の辞典	

1. 著者名 河合俊雄・吉岡洋・西垣通・尾形哲也・長尾真	4. 発行年 2021年
2. 出版社 創元社	5. 総ページ数 163
3. 書名 こころ とアーティフィシャル・マインド	

1. 著者名 吉岡洋	4. 発行年 2022年
2. 出版社 京都大学こころの未来研究センター	5. 総ページ数 247
3. 書名 Minima Aesthetica [直観断想集] 4	

1. 著者名 吉岡洋	4. 発行年 2022年
2. 出版社 京都大学こころの未来研究センター	5. 総ページ数 319
3. 書名 Minima Aesthetica [直観断想集] 3	

1. 著者名 吉岡洋	4. 発行年 2021年
2. 出版社 京都大学こころの未来研究センター	5. 総ページ数 320
3. 書名 Minima Aesthetica [直観断想集] 2	

1. 著者名 菊地暁、佐藤守弘編著	4. 発行年 2020年
2. 出版社 小さ子社	5. 総ページ数 408
3. 書名 学校で地域を紡ぐ 『北白川こども風土記』から	

1. 著者名 佐藤守弘(分担執筆)他	4. 発行年 2021年
2. 出版社 フィルムアート社	5. 総ページ数 295
3. 書名 クリティカル・ワード メディア論 理論と歴史から いま が学べる	

1. 著者名 佐藤守弘（分担執筆）他	4. 発行年 2021年
2. 出版社 人工知能美学芸術研究会	5. 総ページ数 448
3. 書名 S/N S氏がもしAI作曲家に代作させていたとしたら	

1. 著者名 佐藤守弘（分担執筆）他	4. 発行年 2021年
2. 出版社 京都芸術大学・東北芸術工科大学出版局・藝術学舎	5. 総ページ数 328
3. 書名 写真1 写真概論	

1. 著者名 ファビアン・カルパントラ（ほか、共著、横浜国立大学学部編）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 春風社	5. 総ページ数 1026
3. 書名 都市科学辞典	

1. 著者名 ファビアン・カルパントラ（ほか、共著、吉原直樹、樽沼範久編）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東信堂	5. 総ページ数 176
3. 書名 都市は揺れている	

1. 著者名 室井尚、吉岡洋、佐藤守弘、秋庭史典、吉田寛、ファビアン・カルパントラ、ラモン・ロバト	4. 発行年 2020年
2. 出版社 横浜国立大学室井尚研究室	5. 総ページ数 30
3. 書名 ストリーミングの美学 "Netflix Nations"のRamon Lobato氏を迎えて	

1. 著者名 吉岡洋	4. 発行年 2020年
2. 出版社 京都大学こころの未来研究センター	5. 総ページ数 288
3. 書名 Minima Aesthetica [直観断想集] 1	

1. 著者名 佐藤守弘（ほか、共著、竹内幸絵編）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 創元社	5. 総ページ数 240
3. 書名 開封・戦後日本の印刷広告 『プレスアルト』同梱広告傑作選 1949-1977	

1. 著者名 吉田寛	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ニューゲームズオーダー	5. 総ページ数 360
3. 書名 多元化するゲーム文化と社会	

1. 著者名 Martin Roth, Hiroshi Yoshida & Martin Picard (eds.)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 CrossAsia-eBooks	5. 総ページ数 340
3. 書名 Japan's Contemporary Media Culture between Local and Global	

〔産業財産権〕

〔その他〕

室井尚研究室（旧横浜都市文化ラボ） https://y-labo.wixsite.com/home 2020年度オープン研究会「メディア変容と新型コロナウイルス」記録集 https://drive.google.com/file/d/1rkW18mcpv13LHfi4Cv1g4qchk4txcC9o/view 2021年度オープン研究会「ポスト・コロナのポップカルチャー」最終報告書 https://drive.google.com/file/d/1SJuXyMYZwi01kFnd7ytH-vB4SPWLLXkt/view UNPOPULAR POP 脱マスメディア時代のポップカルチャー シンポジウム報告書 http://pc.kyoto-seika.ac.jp/cl/unpopular-pop/unpopular-pop-001%e5%a0%b1%e5%91%8a%e6%9b%b8/

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	吉岡 洋 (YOSHIOKA Hiroshi) (70230688)	京都大学・こころの未来研究センター・特定教授 (14301)	
研究分担者	秋庭 史典 (AKIBA Fuminori) (80252401)	名古屋大学・情報学研究科・准教授 (13901)	
研究分担者	佐藤 守弘 (SATOW Morihiro) (10388176)	同志社大学・文学部・教授 (34310)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	吉田 寛 (YOSHIDA Hiroshi) (40431879)	東京大学・大学院人文社会系研究科（文学部）・准教授 (12601)	
研究分担者	カルパントラ ファビアン (Carpantra Fabien) (00750142)	横浜国立大学・大学院都市イノベーション研究院・講師 (12701)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 ストーリーミングの美学 "Netflix Nations"のRamon Lobato氏を迎えて	開催年 2020年～2020年
---	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関